

## 2014年度 中学校・高等学校 事業計画 & 自己評価

### 1 学校としての使命

尚綱学院の教育目標である「キリスト教を土台として人間の在り方を探り、他者と共に生きる」を具体的な形として実現する。

### 2 尚綱学院中学校・高等学校としてのありたい姿

- (1) 心豊かで、真に優しい心を持った人間として社会に貢献する生徒を育てる学校
- (2) 保護者が「入学させたい」、生徒が「第一希望で入学したい」と願い、社会からは「是非合格させたい」「是非採用したい」と望まれる生徒を育てる学校
- (3) 豊かな表現力や強い自己肯定力を持った生徒を育てる学校
- (4) 自立する心を持ち、自律できる生徒を育てる学校
- (5) 大学や地域と連携し、広く社会と協働する学校
- (6) 教職員が一体となって未来を見つめ、意欲を持って教育に取り組む学校

### 3 2014年度事業計画

事業計画(目標と方針)	
(1) 自己肯定力を持った、真に心優しい生徒を育てる	自己評価
① キリスト教関連行事などを通して、「他者と共に生きる」ことの意味を十分に理解し、実践できる生徒を育てる。	B
② 生徒の目を広く世界に向けさせるため、平和教育や国際理解教育では、生徒が世界を身近に且つ具体的なものとして感じられるよう、充実させる。	A
③ 学校行事や生徒会活動、ボランティア活動などへの積極的な参加を促し、生徒が自主的に活動する中から自己肯定感を向上させる。	A
④ 言語活動に加えて様々な表現技術を持つことで、堂々と自己表現でき、自信を持って他と接することのできるよう成長する機会を設ける。	B
(2) 学力の向上を図る	
① 授業の改善に努め、教師が相互に授業を研究しあえる環境をつくる。	A
② 基礎学力を定着させると共に、一人一人の学力を着実に向上させる。	B
③ PBLや自律学習などの主体的な学習を促進し、より高い次元での学力をを求める生徒を育てる。	B
(3) 一人一人の進路目標実現を支援する	
① 多様な学力の生徒に対し、その特性に応じたきめ細かな進路指導を行う。	B
② 進路目標実現のための情報提供や相談を適時に行う。	B
③ 早い段階から、自分の進路に対する意識を高めさせる指導を行う。	B
④ 4年制大学への進学率を80%台に引き上げる。	B
⑤ それぞれのコースに応じ、より高いレベルでの進路達成を実現する。	B
⑥ 就職や専門学校進学への体制を整える。	B
⑦ 男子生徒に対する進路指導体制を確立する。	B
(4) 入学者を確保する	
① 中学校、高等学校の入学者を確保する。	A
② 高等学校では、一定の学力水準を保ちながら、第一希望での入学者(推薦・専願)80名を確保し、100名に近づける。	A
③ 更に効果的な広報活動を実施する。	A
④ 小学校・中学校や進学塾との情報交換や連携を密にする。	B
(5) 大学や地域と連携し、広く社会に貢献する生徒を育てる	
① 大学との連携事業(学習支援・不登校支援・PBL研究等)を更に促進し、充実させる。	B
② 尚綱学院大学への進学者80名を目標にする。	B
③ 地域行事への参加や社会へ出でのボランティア活動を推進し、地域社会との結びつきをより強めると共に、自己肯定感を高めさせる。	A
(6) 教職員が協働して、意欲的に教育活動に取り組む	
① 教員と事務職員の連携を進めるなど、教職員がチームとして取り組む意識を強く持ち、教育活動を展開する。	B
② 新校舎の完成に向け、組織の見直しを開始する。	B
③ 教育力の向上を目指し、教科指定研修を有効に活用すると共に、教職員の研修システムを整える。	B
④ 学校行事の見直しを行うなど、教育活動を精選する。	B
(7) 生徒が安心して生活できる学校づくりを行う	
① 挨拶する生徒100%を目指し、「安心して見ていられる尚綱生」の定着を図る。	A
② 欠席「0」を目指す。「登校するのが当たり前」の意識を浸透させる。	B
③ 健康教育やカウンセリングを充実し、生徒の心身両面の健康づくりを支援する。	A
④ 防災教育や防災訓練を徹底し、校内の安全点検を日常的に行う。	A
⑤ いじめ問題の撲滅を目指すと共に、迅速に対応できる態勢を整える。	B
⑥ 情報ツールの適切な使用について啓蒙を進める。	B
⑦ 一人の人間としての生徒の人権を尊重し、法令を遵守する。	B
(8) その他	
① 新校舎への円滑な引っ越しに向けた計画を立てると共に、物品の整理などに早めに着手する。	B
② 新校舎建築工事において、生徒の安全を確保する。	B
③ 学校評価アンケートや学校評議員会等を効果的に実施する。	A